

メールにていただいた質問について、以下のとおり回答いたしました。

1. 観客収容人数が固定・仮設を合わせて、3000人～4000人となっています。この観客数はアマチュアレベルの全国大会開催に必要な観客数としています。例えばこれが2500人だと開催が困難になるのでしょうか。2023年の当初案でも3500人以上となっていて、根拠が明確ではなく、多くの疑問が出された数だと思います。再度提案してきた観客収容人数の根拠を教えてください。

【回答】

第2回ワークショップでは、今年度実施したアンケートや第1回ワークショップ等の意見を参考にして、固定席数や配置等のイメージ案をお示ししました。現時点で新体育館の固定席数の規模は決まっておりませんが、引き続き、ワークショップや大会を運営するスポーツ団体等の御意見、他自治体の体育館も参考にして、学生等の全国大会が開催可能な規模、設備を検討します。

2. 今回の4案それぞれについて建設費が示されています。2023年の当初案では100億円とされていました。今回の提案では、約90億円～140億円となっています。物価が高騰して道の駅建設など新たな補正予算が必要となっています。他の自治体の公共施設建設でも建設費高騰のため建設中止や延期、変更になっています。今回の提案にあたって物価高騰の現在の状況が加味された建設費でしょうか？ 実現可能な金額なのか心配です。

【回答】

今年度実施したワークショップでは新体育館の建設費のみの概算費用を提示し、物価上昇を加味した金額となります。2022年度の計画案は総事業費であり、建設費のほか、公園整備費等も含まれた金額です。

3. 私は、熊谷市でも視察に行った沼津市総合体育館が1つの参考事例になると考えています。観客席も2000人 + α です。この程度の体育館であれば現在の敷地内に建設が可能と考えています。沼津市総合体育館では多種類の運動が可能です。カフェ、整骨院も魅力です。新体育館のサンプルとして沼津市総合体育館は利用できませんか。

【回答】

「1」の回答と重複いたしますが、沼津市総合体育館等の他自治体の事例も参考にし、引き続き、ワークショップや大会を運営するスポーツ団体等の御意見を踏まえ、新しい体育館の施設規模や導入する設備、事業手法等を検討します。

4. 4年前の当初案での議論の中で、1階を駐車場、2階を体育館とする案は日照の関係でできないと言われたと思いますが、今回3案になっています。建設可能な案として考えてよろしいのですか？

【回答】

2022年度の計画案と比較し、1階に駐車場を設ける案はいずれも日陰の影響を受けにくい計画地の東側に計画することで、建設可能な案として提示しています。

5. 新体育館を避難所として利用する際の心配です。地震の場合は別として、特に大雨時です、体育館の周辺が浸水しているときは、体育館に来ることが難しく、たとえ車で来ることができた場合でも駐車スペースが少ないため体育館にも入れません。浸水時の避難の在り方、車での避難の場合の対処法について対策が必要だと思います。この点についていかがお考えですか？ 車での避難は行わないよう指示されていますが、実際は車になってしまうと思います。

【回答】

御指摘のとおり、避難所へ車で避難される方はいると考えられます。しかし、過去の大規模災害や本市における令和元年東日本台風でも、車での避難は混乱の原因となっているため、原則として徒歩での避難をお願いしています。過去の災害での教訓や、避難所の駐車場は緊急車両や避難行動要支援者のために必要となることを引き続き周知してまいります。車両での避難の場合には、第一避難所や第二避難所（現在の市民体育館は第二避難所として指定しています。）よりも早期に開設され、車両での避難も可能な自主避難所へ避難していただくことや、安全な地域に住む親戚・知人宅に早めに避難していただくことを想定しています。次に、浸水時の避難のあり方ですが、本市の避難のポイントとして地域ごとの避難先の指定はありませんが、実際には、家から近く安全に避難できる避難所を選択することが予想されます。市民体育館周辺の想定浸水深は、「～0.5m未満」、「0.5m～3.0m未満」であり、2階以上の建物に住んでいる場合は、一部区域を除き在宅避難も可能な場所です（※）。避難生活のストレスや、感染症のリスクも抑えられることから、市民体育館への避難以外に、在宅避難も有効な避難方法として検討いただきたいと考えています。

※家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）に該当する場合は、流速が早く木造家屋が倒壊するおそれがある区域であるため、建物の構造種別が木造家屋の場合、避難所への避難が必要です。

6. 熊谷市の将来の人口の見込みとの関連です。熊谷市の資料によると現在 19 万人の人口が 20 年後には 14 万人 に減少し、子育て世代の人数の減少の割合はそれ以上になるだろうとなっています。当然市に収める税金も減る でしょう。将来を担う若者たちに公共施設負担のつけを残してはならないと考えています。20 年後、30 年後を考えた新体育館にして下さい。建設費、運営費等今後につけを残さないような対策を考えていますか？

【回答】

建設費や運営費等に関しては、財源の確保、導入する設備の検討等を進めるほか、設計や工事、運営を一括発注する契約方式等、民間活力導入の可能性を調査し、管理運営費を含めたトータルコストの縮減に向けて取組を進めます。

なお、今後、人口減少によるスポーツ施設利用者数の低下、施設の老朽化によりスポーツ施設統廃合の検討を進めることも考えられますが、公共交通の利便性が高く、これまでも大会等の利用実績の多い市民体育館については、市のスポーツ振興の拠点として再整備し、幅広い世代や障害のある方等も使用できる体育館整備に向けた取組を進めます。

7. 協議会が規模を決め、そのメンバーは市役所が決め、スポーツ協会会長は市長なのだから民意が反映されない。文化連盟のメンバーも入れるか？

体育館だけではなく公園の整備でもあるので公園に関連する市民も入れるか？

また傍聴は認められるか？ 認めない場合理由を教えてください。

2000 席のプランもワークショップで示してほしい。

【回答】

荒川公園周辺再整備基本計画策定に向けた協議会は、学識経験者や地区の代表者、福祉、子育て、防災、スポーツ・文化、商工産業等団体が構成する予定です。なお、傍聴は可能にする予定です。

現時点で新体育館の固定席数の規模は決まっておりませんが、2,000 席規模の体育館という御意見を含め、引き続き、ワークショップや大会を運営するスポーツ団体等の御意見、他自治体の体育館も参考にして、基本計画策定に向けた取組を進めます。

8. 全国大会を一年に何度呼べると試算しているのか教えてほしい。

深谷ビッグタートルで一年に何度全国大会を開催しているのか教えてほしい。

全国大会をしたら交流人口は増えるがどのくらい経済が良くなるのか数字で示してほしい。

直近で3月24日から全国ラグビーフットボール大会が行われるが宿泊 飲食 交通など経済波及効果あるのか調べてほしい。

ワイルドナイツの試合を熊谷の賑わい創出に活かさきれていないのに、アリーナ作れば南口が賑わうというのは信じられない。根拠を示してほしい。

【回答】

関東・全国大会規模の大会誘致は、市内で年間10大会を目標としておりますが、新体育館においては市民利用とのバランスを考慮して大会誘致を行う予定です。

地域経済の視点では、講師を招いて再整備とまちの関係性に関するセミナーを開催しますので、ぜひ御参加いただけますと幸いです。

なお、今後、基本計画策定に向けて経済波及効果の検討を実施する予定ですが、深谷市総合体育館の大会実績の調査、全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会開催における経済波及効果の分析を行う予定はありません。